

学年を超えた絆で掴んだ勝利



329号

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

ベスト8に輝いた
ソフトボール部!
当日のエピソードや
思いを取材しました

ソフトボール部、ベスト8

8月11日(火)に行われた東京私学女子ソフトボール選手権大会で桐朋女子高校に勝利し、ベスト8に輝いたソフトボール部。大会に出場した部長と次期部長、そしてマネージャーに話を聞いた。
(編集部共同取材)

部活を支えたマネージャー

錦城のソフトボール部がこの大会でベスト8を取ったのは、相手校が棄権して勝ち越した以外では初めてだといふ。マネージャーの山陸那奈さん(2E)は試合を振り返り



錦城のソフトボール部が東京都でベスト8を成し遂げたのは、相手の棄権によるもの以外では史上初

「対戦相手が優勝したことのあるチームで強かったのですが、最後に逆転したときはびっくりしました。本当に嬉しかったです」と話す。試合中は出場しなかった2・3年生と共に応援に徹していたそう。印象に残った瞬間を聞くと、円陣を組み際、いつもは「点取るぞー!」という掛け声であるのに対し、今日は「3点取るぞー!」という掛け声をしていった場面を挙げた。このとき5回表が終わったあとで次の攻撃の時に3点を取らなければ負けてしまうという状況だったそう。山陸さんは「3点取るぞー!」と言って実際に3点取って帰って来たので感動しました」と語った。

3年間の最後は

サヨナラ勝ち

部長の吉口歩里さん(3I)は勝ち負けよりも、悔いの無

いように楽しもうと思っただけでした。まさかベスト8まで行けるとは思っていませんでした」と語る。大会を振り返り、サヨナラ勝ちのシーンが印象に残っているそう。最後に3点入れられたときは嬉しかったです」と吉口さん。また昨年の秋にあった新人大会では予選で敗退してしまい、ここから頑張ろうと思っていた。その矢先にコロナウイルスの影響で練習ができなくなり、がっかりしていたそう。しかし、この大会で新人大会のときの悔しさを晴らせたという。最後に



普段の練習風景

吉口さんは「声が枯れるまで応援してくれた部員たち、この時期でも大会を設けてくれた協会の方、そして何よりもここまでチームを育ててくれた顧問の伊藤先生と栗林先生に感謝したいです」と語った。

今後の意気込みを語る

「先輩が楽しかったと言ってくれたことが心の底から嬉しかったです」と試合を振り返るのは次期部長の古閑丸陽

おめでとうソフト部!

朝目が昇る中出発



大会名	球場	年月日	チーム名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
桐朋	1回戦			2	0	1	0	1						
錦城	2回戦			0	0	2	0	3	x					

KEIKO BALL
千葉ソフトボール株式会社

サヨナラ勝ちでベスト8に

子さん(2B)。3年生にとっては、準備や片付けは1年と2年の最後の試合で足を引っ張らないように「エラー無し」を自分の目標にしていたこと。これは通常なら3年生は引退している時期である。試合で印象に残った場面は引退している時期である。先輩たちが流れを変えてばんばん打ってくれたところで「経験者が少ない中でも、一」と話す。また、テスト期間と重なるなど今までも練習時間が減っていたというソフトボール部。練習での工夫を抱負を語った。